= Kobak = コバク

Vazriya Horonu

Kobak-Yusufeli-Artvin-Türkiye (Vazriya)

小さめの クローズドサークル 6/8 歌い部分は 2/4

Intro Ⓥ R L, R, L r, r kick (×8) + III (×2) + IV (×4)
r ヒール上げ

うた Ⓣ R, L, ---- 肩組んでもよい

うたは、リーダーが1フレーズ2回歌い全員で同じく2回くり返す。

Trans. R L B, (×3)
左向 左向

この部分は、3回だったり、4回だったり、0回だったり いろいろ。

間奏

I. Ⓣ J J J H, (×4)
st st st r kick (↻)

II. Ⓣ J J J H, Rev ,,, (×2)
skip でも ℓ↑

III. フリー R L R ℓ, Rev ,,, (×2)
x x x clap clap clap kick

IV. R, H, LR, L, (×4)
Ⓥ後 前 前
押さえるように

<ローカルメモ>

- Kobak村は、Vazriyaと古くは呼ばれていた。
- Stepの構成や回数は、多く見られるパターンをもとに仮決めした。
- これ以外にもArtvinで見られるStepが混ぜ合わされたりする。
- iMERAの演奏で踊るならこのあとにDüz Horonが続く。(Vazriya Düz Horon 参照)

2026.10.14 初版

Denç

Kobak - Artvin - Türkiye

[1]
Kobak köyünden geçtim
Soğuk suyundan içtim
Güzel güzel kızlara
Selam vermeden geçtim
Oy milli milli milli
Yaşasın hanım Güllü(Guli)
※ Habid kaba ! ha ha !
Bir daha kaba ! ha ha !
Üsta kaba ! ha ha !
[2]
Duman dere yukarı
Girdi taşın altına
Kız yastığın yok ise
Kolum başın altına
Oy milli milli milli
Yaşasın hanım Güllü(Guli)
※ Habid ～
[3]
Duman dere yukarı
Bir yayılması vardır
Kız oğlanı gören de
Bir bayılması vardır
Oy milli milli milli
Yaşasın hanım Güllü(Guli)
※ Habid ～

[1]
コバク村を通り過ぎ
その冷たい湧き水を飲んだ
あんなに可愛い娘たちがいたのに
挨拶もせずに通り過ぎてしまった(恥ずかしくて)
ああ、愛しのミリ、ミリ、ミリよ
万歳、我が愛しのギュッリュ嬢よ！

[2]
川霧が谷を這い上がり
岩の隙間へと吸い込まれていく
ねえ、もし君に枕がないのなら
僕のこの腕を君の頭の下に敷いておくれ
　　ああ、愛しのミリ、ミリ、ミリよ
　　万歳、我が愛しのギュッリュ嬢よ！

[3]
川霧が谷を這い上がり
山肌へとゆっくり広がっていく
あの娘ときたら、大好きな男の子を見ただけで
気絶しそうになってしまうんだ
　　ああ、愛しのミリ、ミリ、ミリよ
　　万歳、我が愛しのギュッリュ嬢よ！

歌詞の背景とポイント
コバク村（Kobak）：現在のトルコ・アルトヴィン県にある山奥の美しい村の名前。黒海特有の豊かな湧き水が有名。
Milli（ミリ）：「国民の」という意味もあるが、ここでは恋人や愛しい人を呼ぶ親愛の愛称。
Güllü（ギュッリュ）：トルコの女性の名前。「薔薇のような」「華やかな」という意味を持つ。
黒海的な表現：「霧（Duman）」はこの地域の厳しい山岳気候の象徴であり、恋の切なさや情熱を自然の風景に例えるのは、黒海の民謡（テュルク）の王道のスタイル。
Habid（ハビド）：黒海地方のダンス（ホロン）の合図で使われる「それ！」「ほら！」という高揚感を煽る掛け声（「Hayde」などに近い表現）
Kaba（カバ）：トルコ語の古語や方言で「太い」「粗い」「激しい」といった意味がある。黒海地方の音楽では、ケメンチェやトゥルム（バグパイプ）などの楽器を「力強く、激しくかき鳴らすスタイル」や、足を踏み鳴らす「激しいダンスの動き」を指す。
Bir daha（ビル・ダハ）：「もう一度」「もう一回」という意味。
Üsta（ウスタ）： トルコ語の「Usta（達人、職人、マスター）」または「Üst（上、さらに上）」から来ており、「最高に」「さらに一段と上へ」というニュアンスで熱量を上げる時に使われる。
黒海地方の激しいステップを踏むダンス（ホロン）の最中に、リーダーが「さあ激しく踏み鳴らせ！もういっちょ！もっと激しく！」と周囲を煽っている最高潮の場面の歌詞である。